

リハビリテーション学科 作業療法学専攻 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	11	日本語表現法
1年	16	現代の社会
1年	19	生物学
1年	21	健康スポーツ科学
1年	42	作業療法評価学原論
2年	61	歴史と文化
2年	62	暮らしの中の法律
2年	65	内科学Ⅰ
2年	68	小児科学
2年	74	臨床心理学
2年	75	公衆衛生学
2年	78・79	領域別作業療法評価学
2年	91・92	作業療法総合演習Ⅰ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●	●						
科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田 理		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	医療の現場においては、健康に問題を抱えるさまざまな年代の患者の方々と、日本語という言語を通じてコミュニケーションを図り、患者の方々が何を求めているかを適切に把握し、かつ医療側の方針を適確に伝達しなければならない。この講義では、正確な日本語の使用方法を身につけることができるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう、集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。									
回	授業計画				準備学修					
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
2	日本文の概要：現代文の成り立ち				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
3	日本文の概要：古典と文語文法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
4	日本文の概要：現代文法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
5	日本文の概要：現代文法つづき(品詞分類)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
6	現代文の修辞：原稿用紙の使い方など 実践：課題文を書く(800字)…主題は当日指示				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
7	語彙1：辞書語彙…漢字と対義語・類義語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
8	現代文の修辞：表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
9	文章の作成：作成要領、手順・構成、推論、推敲				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
10	敬語：種類と働き、尊敬語、謙譲語、丁寧語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
教科書	「原色シグマ新国語便覧(増補三訂版)」国語教育プロジェクト編著、文英堂									
参考文献	特になし(適宜担当者が作成するプリントを配布する)									
備考	P T・O T合同授業 進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。授業内課題である課題文は、単位認定の必須事項として成績の主体となる。受講態度は、授業後の日本語表現法プリントの提出状況で判断する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-03				
	●			●	●					
科目名	現代の社会				単位認定者	吉田 理		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	現代の日本及び世界がどのような構造になっているかについて、経済、政治の視点を主としながら理解する。また、日本社会が抱える諸問題についても考える。現代の社会を生きるために不可欠な基礎知識を身につけ、社会の動向に絶えず関心を持ち続け、社会生活において的確な選択や判断ができるようにする。									
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	「現代の社会」導入(現代社会の誕生)				私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。(30分程度)					
2	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)				前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
3	現代社会と人間の本質(特に自己形成)				前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
4	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)				前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
5	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と選挙制度・世論)				前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
6	現代の経済社会(特に財政と金融)				前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
7	少子高齢化(その原因と対策、社会保障の概要について)				前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
8	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)				前回の講義内容(少子高齢化)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
9	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について)				前回の講義内容(消費者問題)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
10	国際社会と人類の課題(特に国際平和と日本の役割)				前回の講義内容(労働問題)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
教科書	「2020小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus」第一学習社									
参考文献	「別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか」池上彰著(NHK出版(2017)) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)									
備考	P T・O T合同授業 板書を中心に進める。レポート作成を課し(含事後指導)、単位認定の授業内課題必須事項として成績に加える。 受講態度は、確認テスト解答送信で判断する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-0-HSC-01				
	●									
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。理学療法士・作業療法士の専門科目を理解するための基礎知識を習得する。									
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として、生物学の教養を深めるとともに、理学療法士、作業療法士としての専門・臨床科目における生物学の原理を理解できるようになる。									
学修者への期待等	理解できないこと、自分の認識と異なる講義などがあっても授業中であっても質問してほしい。講師とのコミュニケーションを通して積極的に授業に参加してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	生物の分類				復習を心がけること (概ね30分)					
2	細胞Ⅰ(構造と機能)				前時配布のプリント(細胞Ⅰ「構造と機能」)の予習(概ね1時間)					
3	細胞Ⅱ(増殖と分化)				前時配布のプリント(細胞Ⅱ「増殖と分化」)の予習(概ね1時間)					
4	細胞Ⅲ(物質交換)				前時配布のプリント(細胞Ⅲ「物質交換」)の予習(概ね1時間)					
5	生体のエネルギーと代謝				前時配布のプリント(生体のエネルギーと代謝)の予習(概ね1時間)					
6	環境応答と神経伝達				前時配布のプリント(環境応答と神経伝達)の予習(概ね1時間)					
7	遺伝				前時配布のプリント(遺伝)の予習(概ね1時間)					
8	遺伝情報の発現				前時配布のプリント(遺伝情報の発現)の予習(概ね1時間)					
教科書	毎回プリント									
参考文献	「解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理」岡田隆夫著 羊土社									
備考	P T・O T合同授業 毎回授業の最後にミニツペーパーの提出を求めます。また、課題レポートの提出を一度求めます。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-0-HSC-03				
	●		●	●						
科目名	健康スポーツ科学				単位認定者	三浦 雅史		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	健康であることは生活の質を上げるために不可欠な要素である。その健康を維持するために食生活とスポーツの重要性を説き、それを科学的に検証する。運動を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法に関して、具体的なデータ等を使いながら学んでいく。また、生活習慣病と運動及び食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などについても具体的に学んでいく。									
到達目標	生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の維持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につなげることができるようになる。健康について理解し、説明できる。健康と運動・スポーツについて理解し、説明できる。									
学修者への期待等	今後学修する基礎医学や理学療法・作業療法の基礎となる科目です。予習・復習を期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	健康の定義、成り立ち、モデルについて -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（健康であるとはどういうことか？）を事前に読む。（概ね30分程度）					
2	生活習慣と健康について -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（生活習慣と健康）を事前に読む。（概ね30分程度）					
3	心の健康とは？ 心の病について -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（心の健康とは？）を事前に読む。（概ね30分程度）					
4	ストレスと健康の関連性 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（ストレスと健康）を事前に読む。（概ね30分程度）					
5	健康づくりのための政策 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（健康づくりのための政策）を事前に読む。（概ね30分程度）					
6	エイズ・性感染症 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（エイズ・性感染症）を事前に読む。（概ね30分程度）					
7	体力の概念、構成要素 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（体力とは何か？、大学生の体力、体力の測定と評価方法、身体を知る、発育・発達）を事前に読む。（概ね30分程度）					
8	なぜ運動が必要か？、運動の実際・効果 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（運動の意味を考える、運動の実際）を事前に読む。（概ね30分程度）					
9	代表的なスポーツ外傷・障害 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（スポーツ傷害）を事前に読む。（概ね30分程度）					
10	スポーツ現場での救急法、RICE処置 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（救急法）を事前に読む。（概ね30分程度）					
11	スポーツの役割：する、みる、ささえるスポーツ -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツの指導者）を事前に読む。（概ね30分程度）					
12	スポーツとパーソナリティ -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（スポーツとパーソナリティ）を事前に読む。（概ね30分程度）					
13	高齢者の健康づくりサークルの実例 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				LMS上にアップロードした講義資料を事前に読む。（概ね30分程度）					
14	健康的な減量（ダイエット）について考える -講義内容のグループワーク、レポート作成-				LMS上にアップロードした講義資料を事前に読む。（概ね30分程度）					
15	健康になるためには？スポーツの果たす役割は？ -講義内容のグループワーク、レポート作成-				講義時に、KJ法によるグループワーク・ディスカッションを実施しますので、過去の講義資料・レポートを事前に確認する（概ね1時間程度）					
教科書	電子教科書：「大学生の健康スポーツ科学」大学生の健康スポーツ科学研究会著、道和書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業。必要に応じて、LMS上に参考資料をアップロードします。また、レポート提出もLMS上で実施しますので、講義時には必ずPCを持参して下さい。授業内課題のフィードバック：次週に実施。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-ASO-01			
	●			●					
科目名	作業療法評価学原論				単位認定者	戸田 祐子		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間
				授業回数		8 回			
授業の概要	対象者の障害や予後予測を踏まえた上で、作業機能障害に焦点を当てた評価計画を立案することができるよう、評価の目的と概要について学んでいく。 また、身体障害領域、精神障害領域など、作業療法士が関わる各領域の評価の特色について理解するとともに、複数の評価結果を統合し、対象者の状態を俯瞰的に捉え、理解することができるよう、クリニカルリーズニング（臨床的推論）の手法についても理解を深めていく。								
到達目標	作業療法評価の意義や位置づけを理解し、説明できるようになる。評価にあたって、対象者に対する説明と了承のもと実施する基本的姿勢を身に付け、苦痛や疲労に対する配慮ができるようになる。専門用語を正しく理解し、記録に活かすことができるようになる。								
学修者への期待等	評価とは何か、評価する意義や目的は何かを問う姿勢をもって授業に臨んでください。 授業の復習や用語の整理を行い、関連科目でいかせるよう取り組んでください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	評価の目的・意義について							戸田 祐子	
2	作業療法の過程と評価の位置づけを理解する				前回学修した内容を復習し、該当ページを読んでおくこと（概ね30分）			戸田 祐子	
3	評価項目（ICF）、手順と手段を理解する				該当ページを読んでおくこと（概ね30分）事後、復習すること（概ね30分）			戸田 祐子	
4	記録・報告の重要性を理解する				該当ページを読んでおくこと（概ね30分）事後、復習すること（概ね30分）			戸田 祐子	
5	効果判定について理解する				効果判定に関するページを読んでおくこと（概ね30分）			戸田 祐子	
6	面接の種類と方法について理解する				LMSで提示する事前資料を読んでおくこと（概ね30分）			熊谷 竜太	
7	観察の種類と方法について理解する（個別）				LMSで提示する事前資料を読んでおくこと（概ね30分）			熊谷 竜太	
8	観察の種類と方法について理解する（集団）				LMSで提示する事前資料を読んでおくこと（概ね30分）			熊谷 竜太	
教科書	「標準作業療法評価学 専門分野 作業療法評価学」第3版 能登真一他編、医学書院								
参考文献	「作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考えかた」斎藤佑樹編集、医学書院								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

高齢期領域の作業療法に従事し、作業療法対象者の評価をもとに生活に着目した作業療法を実践してきた。また、臨床実習指導者として学生の教育にも携わってきた。これらの経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-03		
	●			●				
科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄		※詳細は備考欄を参照すること
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	
	OT	必修	2年	授業形態	講義	授業時間数	20 時間	
						授業回数	10 回	
授業の概要	<p>こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。</p>							
到達目標	<p>(丸藤)近現代世界の形成上、重要な役割を持つ歴史事象について、社会・経済・文化の観点から各回主題を設けて講義する。主題に関する諸問題を理解し、近現代の世界に対する知識・理解・関心を深めることを目標とする。 (徳田)人間のみが持ち得る、歴史や文化、宗教を学ぶことによって、社会人、そして家庭人としても有用な、より深く、豊かな人間の理解を身に付けることを目標とする。</p>							
学修者への期待等	<p>授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。</p>							
回	授業計画				準備学修		担当	
1	ユダヤ教について －律法の遵守－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
2	キリスト教について －罪からの救い－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
3	イスラームについて －神への服従－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
4	インドの宗教について －業と輪廻－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
5	仏教について －苦からの解脱－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
6	グローバルエコノミーのはじまり －西欧の拡大:地域間経済から世界経済へ－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させる。(約1時間)		丸藤 准二	
7	科学革命と啓蒙 －「知」の大転換と新しい「知」の広がり－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
8	産業革命 －人類史の分水嶺:工業化による経済・社会の変革－				配布したレジュメを中心に今回の授業内容を復習し、課題を完成すること。(約1時間)		丸藤 准二	
9	ビジネスの歴史・教育の歴史・医療の歴史 －諸制度の発展と近代社会－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
10	現代世界とグローバルヒストリー －現代世界の成立と新しい歴史観－				今回の授業を復習するとともに、これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)		丸藤 准二	
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配布します。							
参考文献	授業において指示します。							
備考	<p>PT・OT合同授業 評価の方法について (丸藤)授業内課題(各授業回での課題)100% (徳田)授業内課題(チェック・テスト)100%</p>							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学修力	地域理解力	CO-0-HSO-02				
	●			●						
科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	湯本 あゆみ		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。									
到達目標	法の基本原則や概念を理解し、説明できる。そして具体的な法律問題について、法的論理・根拠に基づいて自ら結論を導くことができる。									
学修者への期待等	本講義では、法について広く学ぶため、さまざまな法律用語や考え方に触れることとなります。そのため、特に復習に重点を置いて、各講義で学んだことを逐一整理し理解するようにして下さい。「なぜ」という部分を重視し、学修に取り組むようにして下さい。また、各講義の最後に復習問題を出しますので、しっかり取り組むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス、法学の基礎				法学の基礎について、復習すること。(概ね30分程度)					
2	司法制度、法体系の概要				裁判所がどういったことを行っているのか、考えてくること。(概ね30分程度)					
3	憲法 憲法の基本				国民主権、基本的人権の尊重、平和主義が、どういった内容を有するのかについて考えてくること。(概ね30分程度)					
4	憲法 人権① 精神的自由				第3回の講義内容を復習し、基本的人権における精神的自由の内容には、どういったものが含まれていたかを確認してくること。(概ね30分程度)					
5	憲法 人権② 経済的自由				第4回の講義内容(人権①)を復習し、第4回の講義に臨むこと。(概ね30分程度)					
6	憲法 統治									
7	民法 財産法① 民法の基本原則				第2回の講義内容を復習し、民法がどういった法に当たるのかについて確認してくること。(概ね20分程度)					
8	民法 財産法② 契約と不法行為									
9	民法 親族相続法									
10	刑法 罪刑法定主義など、講義のまとめ				第2回の講義内容を復習し、刑法がどういった法に当たるのかについて確認してくること。(概ね20分程度)					
教科書	特に指定しない。									
参考文献	末川博編「法学入門〔第6版補訂版〕」(有斐閣、2014年)、伊藤正己、加藤一郎編「現代法学入門〔第4版〕」(有斐閣、2005年)。その他については、初回の講義で案内する。									
備考	授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。 P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-03				
		●		●						
科目名	内科学 I				単位認定者	小笠原 鉄郎		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間	授業内課題 (レポート)
							授業回数		15 回	
授業の概要	内科学Iに関する症候、診断、治療学について総論的に学ぶとともに、内科学Iでは、臓器別の疾患の理解を深め、理学療法や作業療法を実施する上で療法士として知っておくべき基本的知識を身につける。									
到達目標	多職種によるチーム医療の一員として活動するうえで、共通言語としての内科学の疾病概念、治療目標を共有できるようになること。そのために1) 医学用語を間違いなく読みかつ書け、意味を理解し正しく表出できること。2) 各臓器の構造・機能と、その機能障害としての疾病を理解する(疾患の全身に及ぼす機序を理解する)。3) 国家試験に備え知識を整理する。									
学修者への期待等	内科学Iでは、担当者は事前に割り当てた教科書の各単元の重点個所について受講前に読み込んでおくこと。授業中にスムーズに輪読(担当箇所を音読)でき医学用語(英語の読みも含む)を正しく使用できるようになることを期待する。同時に担当者に口頭での質問を行い理解度を評価する。各単元毎の小テストと共に最終評価に加算される。									
回	授業計画				準備学修					
1	内科学 概念 診断学				教科書を読み概略をつかんでおく。					
2	症候学				教科書を読み概略をつかんでおく。					
3	循環器疾患1 総論(症状・診断)				教科書を読み概略をつかんでおく。 特に心電図診断について					
4	循環器疾患2 各論 ミニテスト①				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に心筋梗塞 不整脈 心臓リハについて					
5	呼吸器疾患1 総論(症状・診断)				教科書を読み概略をつかんでおく。 特に呼吸機能検査について					
6	呼吸器疾患2 各論 ミニテスト②				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に閉塞性肺炎 肺炎 肺癌 呼吸リハについて					
7	消化器疾患1 総論 消化管疾患				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に食道癌 胃癌 大腸癌について					
8	消化器疾患2 肝胆膵・腹膜疾患 ミニテスト③ ミニテスト④				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に肝硬変について					
9	血液疾患 ミニテスト⑤				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に貧血の分類について					
10	代謝疾患 ミニテスト⑥				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に糖尿病 メタボリック症候群 酸塩基平衡について					
11	内分泌疾患 ミニテスト⑦				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に下垂体、甲状腺、副腎疾患の症状について					
12	腎泌尿器疾患 ミニテスト⑧				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に腎不全について					
13	免疫疾患 ミニテスト⑨				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に慢性関節リウマチ、SLEについて					
14	感染症 ミニテスト⑩				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に代表的な細菌性疾患 ウイルス性疾患について					
15	総括									
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学」前田眞治編、医学書院									
参考文献	各専門分野の学会ホームページで提供している一般市民向けの疾患についての解説、ガイドラインなどが参考になる。 (日本循環器学会 日本呼吸器学会 日本消化器病学会 日本糖尿病協会など) 講義の前に各学会などのURL リストを配布する。									
備考	P T・O T合同授業 1) 各自に割り当てられた担当箇所を授業内課題としてレポートを提出。 2) 各単元毎に小テストを実施。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-05				
		●		●						
科目名	小児科学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	55 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	25 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患の理解を図る。									
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。									
学修者への期待等	他人を敬うことと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること。									
回	授業計画				準備学修					
1	小児科学とは				【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）					
2	先天異常・遺伝病 新生児疾患				【事前】胎児の発達、遺伝の仕組み、新生児特有の生態を理解しておく。（概ね1時間程度）					
3	免疫・アレルギー疾患				【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）					
4	感染症				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（概ね1時間程度）					
5	呼吸器・循環器疾患				【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。（概ね1時間程度）					
6	消化器・内分泌疾患				【事前】消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解しておく。（概ね1時間程度）					
7	血液・腫瘍疾患				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（概ね1時間程度）					
8	腎・泌尿器疾患				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）					
9	神経・筋・運動器疾患				【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）					
10	重症心身障害・精神疾患・心身症・虐待				【事前】障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（概ね1時間程度）					
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」 富田 豊 編集、医学書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-09			
		●		●					
科目名	臨床心理学				単位認定者	北川 公路		試験(レポート) 80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度 20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間		
				授業形態	講義	授業回数	10 回		
授業の概要	臨床心理学は、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態あるいは病的状態についての支援を行う学問である。本講義では、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士・作業療法士として患者と関わる中で、患者の心理を理解し、心理的適応援助につながる知識を身につける。								
到達目標	心理学の知識を修得して保健医療領域において支援を必要とする人々について理解できるようになること、適切な支援ができるようになることが目標である。								
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 授業2～5回の授業内容は、各専攻の評価学で学ぶものと重なる部分が多くあるため知識を繋げる								
回	授業計画				準備学修				
1	リハビリテーションと臨床心理学				教科書第1章(臨床心理学とは) P. 8～14を読む。(概ね1時間程度)				
2	心理アセスメント① 面接・観察				教科書第4章(臨床心理検査) P. 52～64読む。(概ね2時間程度)				
3	心理アセスメント② 質問紙形式の心理検査				教科書第4章(臨床心理検査) P. 66～71を読む。(概ね2時間程度)				
4	心理アセスメント③ 作業形式および投影法による心理検査				教科書第4章(臨床心理検査) P. 71～87を読む。(概ね1時間程度)				
5	心理アセスメント④ 知能検査				教科書第4章(臨床心理検査) P. 64～66を読む。(概ね1時間程度)				
6	発達臨床心理学				教科書第3章(臨床心理学を学ぶ上での基礎知識) P. 45～49を読む。(概ね1時間程度)				
7	心理療法の理論と実際① 精神分析・行動療法				教科書第3章(臨床心理学を学ぶ上での基礎知識) P. 32～44、第5章(臨床心理面接) P. 92～106を読む。(概ね1時間程度)				
8	心理療法の理論と実際② 認知行動療法・来談者中心療法				教科書第5章(臨床心理面接) P. 106～113を読む。(概ね1時間程度)				
9	心理療法の理論と実際③ その他の心理療法				教科書第5章(臨床心理面接) P. 113～134を読む。(概ね2時間程度)				
10	障害の適応と受容・まとめ				予め配付する資料を読む。(概ね1時間程度)				
教科書	「こころのケア -臨床心理学的アプローチ-」池田勝昭 他 編 学術図書出版社								
参考文献	授業時に随時紹介する。								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-03				
		●		●	●					
科目名	公衆衛生学				単位認定者	鈴木 寿則		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生は集団レベルの健康を取り扱う。その領域は、対人保健(老人・母子・学校・職域)、対物保健(生活環境・食品衛生等)および環境保健(環境保全・公害)など多岐にわたっている。本講義では、我が国における各種疾病統計を踏まえ、実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動(対人保健・対物保健、環境保健など)およびその基盤となる保健・医療・福祉制度(関係法規、衛生行政等)の概要について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代における「健康」の意義について説明できる。 2. 疾病予防と健康増進の考えを習得し、現在の各保健活動について説明できる。 3. 健康と運動・食事などの関連を説明できる。 4. 理学療法士の業務を公衆衛生的観点から説明できる。 									
学修者への期待等	教科書を中心に板書を行いますので、各自ノートなどを用意してください。また、講義の復習として、自分のノートをもとに、調べた内容を書き込むなどしてください。予習としては、日ごろから健康問題や医療問題に関心を持ち、ニュースや新聞に注意を向けてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	公衆衛生学の概念、公衆衛生学の歴史について				教科書p. 1～8 (第1章公衆衛生学序論1. 健康の概念～2. 公衆衛生の概念) を読む (概ね1時間程度)					
2	国際保健の概念、公衆衛生関係法規について				教科書p. 9～24 (第1章公衆衛生学序論3. 公衆衛生・予防医学の歴史～第2章国際保健) を読む (概ね1時間程度)					
3	公衆衛生活動と法規の関係について				教科書p. 24～32 (第2章国際保健3. 人口・保健医療に関わる主な国連機関～第3章行政の仕組みと公衆衛生関連法規3. 衛生法規の定義と内容) を読む (概ね1時間程度)					
4	保健統計の種類と概要について				教科書p. 33～39 (第3章行政の仕組みと公衆衛生関連法規4. 公衆衛生活動関連法規～第4章保健統計1. 保健統計の概要) を読む (概ね1時間程度)					
5	死亡統計と傷病統計について				教科書p. 39～54 (第4章保健統計2. 人口動態統計～5. 傷病統計) を読む (概ね1時間程度)					
6	疾病予防と疫学の関係、疫学の考え方について				教科書p. 54～62 (第4章保健統計5. 傷病統計～第5章疫学1. 疫学の概念) を読む (概ね1時間程度)					
7	疫学の研究デザイン (コホート研究、症例対照研究)				教科書p. 62～79 (第5章疫学2. 疫学で用いられる指標とバイアスの制御～4. スクリーニング) を読む (概ね1時間程度)					
8	がんと循環器疾患の疫学統計および予防について				教科書p. 80～85 (第6章疫学研究の評価と倫理) を読む (概ね1時間程度)					
9	糖尿病と感染症の疫学統計および予防について				教科書p. 86～95 (第7章疾病予防と健康管理1. 健康に関連する行動と社会) を読む (概ね1時間程度)					
10	精神保健の概要について				教科書p. 96～106 (第7章疾病予防と健康管理2. 生活習慣病のリスク行動～3. 健康増進行動) を読む (概ね1時間程度)					
教科書	「衛生・公衆衛生学 社会や環境システムと健康の関わり (2020年発行・最新版)」山本玲子編、株式会社アイ・ケイ コーポレーション									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
RO-2-ASO-04

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●	●						
科目名	領域別作業療法評価学				単位認定者	戸田 祐子		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		試験（実技）	20 %
						授業形態	講義 <th>授業時間数</th> <td>60 時間</td> <td>授業内課題</td> <td>30 %</td>		授業時間数	60 時間
				授業回数	30 回					
授業の概要	各領域および各種疾患特有の評価に必要な知識・技術を修得する。疾患のメカニズムを理解すると共に、実技・演習を通して各検査、測定の基本的方法、手順の理論的根拠を学び、的確に行えるよう技術を身につける。また、疾患ごとの評価の視点を学修し、適切な評価項目を選択、実施できるよう技術を身につける。									
到達目標	1. 評価の意義、目的を理解し、説明できるようになる。 2. 評価を適切に実施できるようになる。 3. 実施結果を正確に記録できるようになる。									
学修者への期待等	各疾患のメカニズムを理解し授業に臨んでほしい。 復習をしっかりと行い、評価方法を修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	面接評価について（遠隔授業で実施）				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			齋藤 佑樹		
2	観察評価について（AMPSほか）				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			齋藤 佑樹		
3	認知機能の評価について（HDS-R、MMSEほか） （遠隔授業で実施）				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			戸田 祐子		
4	ADL評価（動作の観察）				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			戸田 祐子		
5	ADL評価 BI・FIM・N-ADL（NMスケールの併用）など				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			戸田 祐子		
6	筋緊張検査について				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			齋藤 佑樹		
7	姿勢反射・バランス検査について				事後：復習として、被検者10名に実施すること。（1時間程度）			山口 志津枝		
8	感覚検査について 表在感覚				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			山口 志津枝		
9	感覚検査について 深部感覚				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			山口 志津枝		
10	ROM・MMT				事前：1年時の授業内容を復習し臨むこと。（2時間程度）			戸田 祐子		
11	各評価のまとめ（形成的評価を中心）							戸田 祐子 高橋 慧		
12	片麻痺機能検査 Brunnstrom test				事前：片麻痺の回復過程を整理して授業に臨むこと。（1時間程度）			山口 志津枝		
13	12段階片麻痺回復グレード				事前：Brunnstrom testを復習し授業に臨むこと。（1時間程度）			山口 志津枝		
14	上肢機能検査 MFT（脳卒中上肢機能検査）				事後：復習として、被検者10名に実施すること。（2時間程度）			戸田 祐子		
15	脳神経検査① 第1～6脳神経 （検査の意義と目的、方法を修得し記録できる）				事後：復習を行い修得に努めること。（概ね1時間程度）			戸田 祐子		

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳神経検査② 第7～12脳神経 (検査の意義と目的、方法を修得し記録できる)	事前：授業に関する脳神経について整理しておくこと。(概ね30分程度)	戸田 祐子
17	MTDLP (生活行為向上マネジメント) ①	事後：復習を行い修得に努めること。(概ね1時間程度)	齋藤 佑樹
18	MTDLP (生活行為向上マネジメント) ②	事前：前回の内容を十分に復習して臨むこと。(概ね1時間程度)	齋藤 佑樹
19	運動発達系検査	事後：復習を行い修得に努めること。(概ね1時間程度)	高橋 慧
20	精神発達系検査	事後：復習を行い修得に努めること。(概ね1時間程度)	高橋 慧
21	摂食・嚥下検査		戸田 祐子 櫻庭 ゆかり
22	各評価のまとめ (形成的評価を中心)		戸田 祐子 高橋 慧
23	精神障害領域の評価 情報収集(遠隔授業で実施)	参考文献の第5章 p 166～172を読むこと。(概ね30分程度)	須藤 あゆみ
24	精神機能・知能検査について (GAF・BPRS・WAIS)		須藤 あゆみ
25	生活機能について (精神障害者ケアマネジメント・LASMI・REHAB・ISDA・SMSF)	事前に配付した資料を読むこと。(概ね30分)	熊谷 竜太
26	演習：精神障害者ケアマネジメント・ISDA	第25回で配布した資料を復習しておくこと。(概ね1時間)	熊谷 竜太
27	作業遂行機能と社会生活技能について ～どのような場面で評価できるか考える～		熊谷 竜太
28	作業遂行機能について ～七夕飾り作りの動画から～		須藤 あゆみ
29	作業遂行機能について ～スポーツ場面の動画から～	観察した場面を記録にまとめること。(概ね1時間程度)	須藤 あゆみ
30	社会生活技能について ～S S T場面の動画から～		須藤 あゆみ
教科書	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」第3版 岩崎テル子他編、医学書院 (1年次 作業療法評価学概論 で使用した教科書)		
参考文献	「精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ」第3版 山根寛著、三輪書店 「作業療法全書 第5巻 作業治療学2 精神障害」改訂第3版 富岡詔子他編、協同医書出版社		
備考	授業内課題のフィードバックは、授業内で適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-14				
		●	●	●						
科目名	作業療法総合演習 I				単位認定者	須藤 あゆみ		試験（筆記）	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	試験（レポート）	20 %
						授業時間数	60 時間		授業内課題	50 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	作業療法の臨床にて関わる頻度の多い疾患について、事例を通し作業療法過程に基づいた一連の流れを学修する。各疾患の症候を基に障害像を理解し、評価の選択から結果の解釈、治療への繋がりまでを理解する。									
到達目標	1. 代表疾患の障害像が説明できるようになる。 2. 提示の疾患に対し、適切な評価が実施できるようになる。 3. 提示の疾患の治療計画が立案できるようになる。 4. 提示の疾患の治療計画が説明できるようになる。									
学修者への期待等	報告書の提出期限が守れるよう計画的に行動してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	授業ガイダンスと総合演習への導入 学修の進め方							山口 志津枝		
2	症例の病態理解と評価計画の立て方				作業療法プロセスを確認し授業に臨むこと。（30分程度）			山口 志津枝		
3	治療の考え方と実際				作業療法概論 I を復習し授業に臨むこと。（1時間程度）			山口 志津枝		
4	症例を通して学ぶ臨床思考①：身体障害領域				教科書の骨折の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）			山口 志津枝		
5	症例を通して学ぶ臨床思考②：身体障害領域				教科書の脳血管障害の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）			山口 志津枝		
6	症例を通して学ぶ臨床思考③：老年期障害領域				認知症に関する箇所を読んで授業に臨むこと。（30分程度）			戸田 祐子		
7	症例を通して学ぶ臨床思考④：精神障害領域				精神障害作業治療学各論で学んだ疾患について復習しておくこと。（1時間程度）			須藤 あゆみ		
8	症例を通して学ぶ臨床思考⑤：精神障害領域							須藤 あゆみ		
9	症例を通して学ぶ臨床思考⑥：発達障害領域				教科書の発達障害の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）			山口 志津枝		
10	症例演習①：症例提示、病態理解と仮説				評価について復習し授業に臨むこと（1時間程度）			山口 志津枝		
11	：評価計画立案				症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（2時間程度）			山口 志津枝		
12	症例演習②：症例提示							須藤 あゆみ		
13	：評価計画立案				症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）			須藤 あゆみ		
14	：治療計画立案				症例の病態、将来像を考えて臨むこと。（30分程度）			須藤 あゆみ		
15	：まとめとポイント				症例演習②を振り返るため、必ず復習しておくこと。（1時間程度）			須藤 あゆみ		

回		準備学修	担当
16	症例演習③：症例提示、病態の理解		戸田 祐子
17	：評価計画立案	症例の病態を整理し、評価計画を列挙しておくこと。（30分程度）	戸田 祐子
18	：評価の実践	実際に立案した評価を行うので必要な物品やスムーズに進めるための対策など準備して臨むこと。（30分程度）	戸田 祐子
19	：治療計画立案	前回の授業でFBした評価結果についてまとめておくこと。（1時間程度）	戸田 祐子
20	：まとめとポイント	これまでの授業内容を復習しておくこと。	戸田 祐子
21	症例演習④：症例提示、評価計画立案		山口 志津枝
22	：評価実施	症例の評価が実施できるよう評価計画を作成し授業に臨むこと。（2時間程度）	山口 志津枝
23	：治療計画立案	予後も含め症例の将来像を考え授業に臨むこと。（1時間程度）	山口 志津枝
24	症例演習⑤：症例提示		須藤 あゆみ
25	：評価計画立案	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。（30分程度）	須藤 あゆみ
26	：治療計画立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。（30分程度）	須藤 あゆみ
27	：治療実施 作業分析	自身が立案した治療計画を分析するため、必要な教科書準備しておくこと。	須藤 あゆみ
28	：発表	各自発表の準備をしておくこと。	須藤 あゆみ
29	症例を通して学ぶ 実践例		須藤 あゆみ 安達 健朗
30	症例を通して学ぶ 実践例		須藤 あゆみ 安達 健朗
教科書	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学（第3版）」岩崎テル子編、医学書院*1 「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）」山口昇編、医学書院*2 「病気がみえるvol7 脳・神経」医療情報科学研究所編、MEDIC MEDIA*3 *1は作業療法評価学概論（1年）、*3は身体障害作業治療概論（1年）で使用した教科書です。 *2は身体障害作業治療学Ⅰ（2年）と同じ教科書です。		
参考文献	随時紹介		
備考	提出期限は厳守してください。期限を過ぎた場合は受け取りませんので気をつけてください。レポート・授業内課題のフィードバックは授業時間中に適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--